

令和元年度 特色ある教育・経営の取り組みを行う私立学校の事例集

ライフイベントに寄り添った女性人材の養成

女性のためのリカレント教育

学校法人京都女子学園
京都女子大学

京都女子大学

京都駅からバスで約10分、東山七条の女坂を登った閑静な立地に、京都女子大学東山キャンパスがあります。

京都女子大学を設置する学校法人京都女子学園は、明治32年甲斐和里子氏が松田甚左衛門氏の助力を得て創設した顕道女学院を創始としています。京都女子大学は、大正9年に開校した京都女子高等専門学校を前身として、昭和24年に開学しています。開学より文学部と家政学部を設置し、平成12年に現代社会学部、16年に発達教育学部、23年には日本の女子大学では初となる法学部を設置しました。また、31年4月には発達教育学部教育学科に養護・福祉教育学専攻を新たに設置し、より高い専門性をもった教員・専門職の養成に力を入れています。

京都女子学園の建学の精神は「親鸞聖人の体せられた仏教精神にもとづく人間教育」であり、仏教精神を学ぶことを通して豊かな人格を育てようとする精神は、顕道女学院の創設から現在も貫かれています。



平成29年度に開館した新図書館

【リカレント教育課程】

平成30年度に西日本の女子大学で初となるリカレント教育課程を開設しました。

リカレント教育課程開設のきっかけは、京都府が「大学連携京都府リカレントプログラム」を立ち上げたことでした。このリカレントプログラムは、スキルを持ちながら出産や育児等で離職した女性や、新たなキャリアを考える女性の働きたいというニーズに応えるため、府内の大学と連携した講座の実施やキャリアアカウンティング等の就職支

援を行い、結婚・子育て等で離職した女性やキャリアチェンジを目指す女性を支援するプログラムとなっています。京都女子大学では、京都府からの要請に基づきリカレント教育課程をスタートすることになりました。

リカレント教育課程の開講にあたっては、同じように就業経験のある女性を対象としたリカレント教育課程を実践している日本女子大学を参考とし、実際に大学に赴き、科目設定等のアドバイスを受けています。

開講までは準備期間を十分に設けることができないスケジュールでしたが、「女性の生き方に寄り添って女性人材を養成する」という大学の教育理念とも合致していたため、学内での反対は無く比較的スムーズに進みました。

首都圏と京都では家族環境や企業環境も異なることから、当初は就職希望の女性だけでなく、質の高い教育を受けたいと考えている就職希望以外の女性の受講も想定していました。実際の受講生は、大学院修了者や看護師・社会保険労務士の資格保有者等、キャリアと高い能力を持ちながらも離職して家庭に入っている女性が多くなりました。京都府との連携事業としては30年度のみでしたが、能力を活かして働きたい女性の行き場が無い現実があり、リカレント教育を受けて大きく意識変革をしている受講生を見て、社会的意義の大きい事業として認識したことが

ら、京都府との連携体制の終了後も大学独自の取り組みとしてリカレント教育課程を継続して開講しています。受講者数は開設初年度20名、2年目19名と、リカレント教育への潜在的ニーズが高いと思われます。



リカレント教育課程の講義の様子

【リカレント教育課程の講義内容】

リカレント教育課程の開講科目は、基礎教養科目とキャリア形成科目に分かれています。

基礎教養科目は、京都女子大学の学部の正課開講科目から抜粋された講義を選択して受講します。学部生と同じ講義を受講することで、受講生は、女子大学の雰囲気の中で学べ、学部生は、女性の生きたロールモデルを身近に見ることができ、教員にとっては、講義において多様な質疑につながり講義に幅がでるといった3者に良い効果を生み出しています。

表：平成31年度(令和元年度) 開講科目

(学部正課開講科目) 基礎教養科目	<ul style="list-style-type: none"> ●市民と社会2 (女性の多様な生き方を探求する) ●服飾美学 ●金融論 ●食空間プロデュース論 ●産学連携講座
(リカレント独自開講) キャリア形成科目	<ul style="list-style-type: none"> ●ライフ・キャリアデザイン ●基礎英語 ●オフィス英語 ●パソコン基礎 ●パソコン実践 ●企業会計 ●初級簿記 ●人事総務 等

キャリア形成科目は、リカレント教育課程独自の開講科目になっています。オムロンエクスパートリンク株式会社、一部の講義を担当し、パソコン基礎や人事総務、企業会計等、就労に役立つ実践的なビジネススキルについて受講することができます。

基礎英語等の語学の講義もありますが、30年度受講生の能力差が大きかったことから、今年度から能力別の2クラス体制とする工夫も見られます。

なお、キャリア形成科目のうち、唯一の必修科目である「ライフ・キャリアデザイン」では、給料を得るために働くのではなく、個々の力を生産力に反映させることが日本社会の存続には重要で

あるといった労働の社会的意義についても学びます。ライフイベント等で就労の場から離れることも多い女性を対象とする上で、受講生が働くことの意義を理論的に考え労働観を確立させることを重視しているところが大きな特徴と言えます。

また、講義中は大学敷地内にある子育て支援ルームでの保育サービスを利用することができ、幼い子どもがいる女性でも集中して講義が受けられるよう配慮されています。



子育て支援ルームの様子

【受講生に対する就労支援】

当初、学部等の新卒生の採用実績のある企業を受講生の就職先として考えていましたが、企業側の求める人材や採用担当者が全く異なることや受講生の家庭環境等から、学部等の学生と同一ように扱うことは難しい状況であることがわかりました。この状況に鑑み

て、リカレント教育課程では、講義での学びと並行して受講生への就労支援を行っています。専属のコーディネーターが月曜日から金曜日まで学内に常駐し、個々のキャリアプランを実現する方法を一緒に考えるほか、京都中小企業家同友会の企業等との交流会を行うなどの支援を行っています。

平成30年度受講者の履修後の就業率は正規・非正規合わせて85%と高い数値となっています。受講当初は就業を目的としていなかった受講生の中にも、リカレント教育課程で自身と社会との関わりについて大きく意識が変わり、就業に向けて活動する受講生もいます。

一方で企業側には、リカレント教育を受けた人材に対する理解度が低く、また、中途採用者に対して社内での調整性への懸念等から、優秀で年齢が高い層を雇用することに抵抗があり、一度就労の場を離れた者を雇用することに経営陣にためらいがある場合が多くみられます。中小企業においては、高い能力を持った優秀な人材を雇用するチャンスでもあり、また、パートタイムで働くことを望む子育て中の女性に対しては、企業側が多様な働き方を許容することで優秀な人材を確保することができきる機会となっています。

多様な働き方がある中で、企業の労働環境の整備とともに経営者の意識改革を図り、リカレント教育への理解を広げていくこと、また、高い能力を持ち



年代も経歴も様々な女性が受講する

ながらも離職して家庭に入っている女性に対してリカレント教育に対する認知度を上げていくことが今後の課題になっています。

【取材を終えて】

今回ご紹介したリカレント教育課程は、「女性の生き方に寄り添って女性人材を養成する」という京都女子大学の教育理念を具現化する取組みといえます。能力の高い優秀な女性が能力を活かせていない現実がある中、女性の社会参画について大学が果たす役割が大きいことから、社会全体でリカレント教育について考えていく必要性を強く感じた取材となりました。

リカレント教育課程を通して行われる女性人材の養成が、女性活躍社会の推進力になることが期待されます。

(取材) 私学経営情報センター